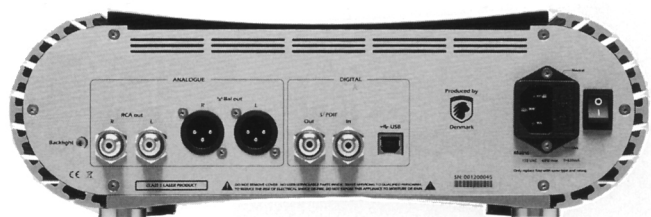


**CDD1**●アナログ出力:アンバランス1系統(RCA)、バランス1系統(XLR)●デジタル出力:同軸1系統(RCA)、USB 1系統(Bタイプ)●寸法/重量:W325×H110×D375mm/10kg●備考:バランス出力HOT=2番ピン●備考:価格はリモコン無しモデル、リモコン付きモデルは¥625,000。バランス入力HOT=2番ピン

**AMP150**●出力:150W+150W(8Ω)、250W+250W(4Ω)●入力インピーダンス:20kΩ(RCA)、40kΩ(XLR)●寸法/重量:W325×H110×D430mm/13.8kg●備考:CDD1、AMP150共に、写真のトップパネルはブラック・ペイント仕上げ。他にホワイト・ペイント、ウォールナット仕上げあり。バランス入力HOT=2番ピン●問合せ先:株式会社オーディオテクニカ(03)5917)4500

ガトーオーディオ  
**CDD1** (写真左) **AMP150** (写真右)  
 ¥580,000 ¥580,000



CDD1のリアパネル。アナログ出力はアンバランス(RCA)/バランス(XLR)各1系統を用意。外部入力を含め、本機は一旦すべてのデジタル信号を192kHz/24ビットにアップサンプリングしてからD/A変換を行なう。



AMP150は、リアパネル両端にスピーカターミナルを、その間にライン入出力端子を配置。4系統のアンバランス(RCA)入力のほか、1系統のバランス(XLR)入力を用意し、ボリュウム回路を通さないSSPモードの設定も可能。そのほか、バランス/アンバランス各1系統のプリアウト端子を備えている。



実体感があり、ニュアンスに富んだ歌声を聴かせる  
 デンマークのニューカマーが上陸。趣味性の高いCDプレーヤーとプリメインの2機種

和田博巳

2012年のミュンヘンハイエンドショウにおいて、コンパクトかつ極めて斬新なエクステリアのプリメインアンプとCDプレーヤーが目にとまった。こういう洒落っ気のあるオーディオコンポーネントは、ドイツではずいぶん珍しい存在……と思つたら、実はデンマークのガトー・オーディオというメーカーの製品で、嬉しいことに日本での発売も決定したという。

ガトー・オーディオの歴史はまだ浅いが、デンマークのオーディオ界の優秀な5つの才能が集結して夢のチームを結成。優れたデザインと性能を両立した製品を送り出しているというから期待ができそうだ。

デザインに対するこだわりは、両機のフロントパネル中央に見えるアナログメーターからも感じることができる。CDプレーヤーのCDD1はタイムやサンプリング周波数が、プリメインアンプのAMP150は出力値が表示されるが、趣味性も重要な要素ならばこういった遊び心は楽しいし無視できない。さらにゆるやかなカーブを描く上品なボディも魅力十分で、トップカバーはプレミアムシルバーの他にリアルウッドやペイントフィニッシュも用意されるとのこと。筆者がミュンヘンショウで見た製品には、フェラリレッドに塗られたモデルもあったが、惚れ惚れする美しさだった。

極めて分厚い低域が軽々と出てくる

試聴はデザイン上からもCDD1とAMP150を組合せて聴くのがベストと考え、このペアで、ビビッド・オーディオのスピーカーシステムG3 GYIAと接続して聴いた。

CDD1のトップローディング式トランスポートは、フィリップスのドライブメカを重量約1kgもあるアルミニウム削り出しのプラットフォームに固定して振動を吸収しているという。キュートなデザインに似合わない重厚さである。そしてAMP150もコンパクトなボディからは想像できない、150W×2(8Ω)を、4Ωでも250W×2というハイパワーを叩き出すというからこれも驚きである。

ベースのクリスチャン・マクブライドのアルバムから、ラテンピアノの巨人エディ・パルミエリと共演した曲をG3 GYIAで聴くと、低域は極めて分厚くしかも軽々と出てくる。叩きつけるような厳しい音ではないものの、ブリッと弾けるウッドベースと立ち上がりの俊敏なピアノの迫力は十分と感ぜられた。いっぽう『ボビノ座のバルバラ』のようなニュアンスに富んだヴォーカル・アルバムはこのペアのいっそう得意とするところで、ステージ上のピアノ、アコーディオン、ベースの配置は前後関係も含めて手に取るようによく分かり、バルバラのヴォーカルは決して冷たくならず、凛とした中にも血が通った実体感のある歌声を聴くことができた。

品質感に優れたリモコンも付属しているが、美しい姿かたちのCDプレーヤーとプリメインアンプは手で操作するととても楽しい。デンマーク製の音とデザインはどうしてこんなに素敵なのだろう。